

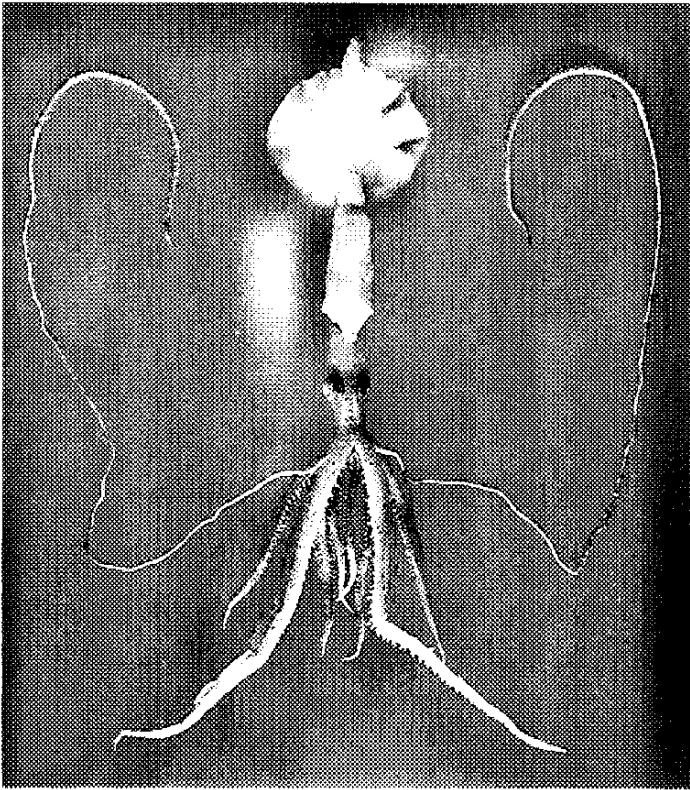
駿河湾

ちよひと底まで

古のSFに出てくる宇宙人を連想しそうな奇妙なイカたち。幽霊とは、ゆらゆらと泳ぐ様子や、ヒレ（耳）が額の死に装束にも似る。

イカの外見上、頭と勘違いされがちなのは外套膜に包まれた胴体で、内臓が収まる。本当の頭

ユウレイイカ



深海にすみ発光する希少種

は、目のあるところ、つまり足の根元になる。おなかの上に頭があるという位置関係からは、ご覧の写真は天地逆さまにするのが正しい見方だ。

足は10本。一番手前の他よりいくぶん太くて長い2本を触腕といい、普通、イカはこれを伸ばして獲物を捕らえ、足の付け根にある口に引き込む。ただ、このイカでは、もっと長いひも状の足が目立つ。

2000〜6000メートルの深海にすみ、ホタルイカのように、発光器が目の周りとか足とか、体中に付く。ひも状の足の先端が黒いのも無数の発光器の塊だ。浅海のイカみたいに素早く泳ぐことはせず、この光る足を真っ暗な海中でだらりと垂らし、集魚灯のように誘った獲物を、太い触腕でキャッチするのだろう。

表層の水温が下がる冬季に、深場から上がってきて、底引き網や定置網に迷い込むことがあるが、めったに見られない希少種だ。

実は、胴体は寒天質で出来ていて、クラゲ同様にほとんどが水分。で、このイカを食べようとしてスルメにしたら、足の一部を少しだけ残して、幽霊のように消え失せてしまったとか。

（東海大学海洋科学博物館・前学芸員 柴田勝重）